北海道仏教研修の旅（昭和63年度）

佐藤悦成

はじめに

北海道における曹洞宗展開の歴史は比較的浅く、明治中期に至って本格化したということができる。この事実に立てば、開教ということばがいまだその意味を失ってはいない地域ということもできる。

今回の禅研究所参禅会主催による研修は、同地における先人の労苦を現地で学習し、宗侶としての自己の布教活動に反映させることに主眼がある。

釧路・網走・旭川・月形・札幌の順序で道東から道南までの主要寺院を参観した。

ちなみに、北海道における仏教各派の動向は、織豊時代以降の松前藩の蝦夷地経営に付随する僅かな例を除いて、明治時代に入って一斉に開始されたと観てよい。織豊期に創建された洞門寺院としては、松前町の法源寺・法幢寺などを挙げることができるが、この研修では訪れないため触れるに留める。

近代になって北海道開拓は精力的に進められ、明治八年（一八七五）の第一回屯田兵入植に至る。明治一九年には北海道庁が設置され、明治政府による積極的政策が展開されることになる。その一環として、開拓の安価な労働力を囚人に求め、多くが北海道へ送られることになる。道内五ヶ所に集治監（刑務所）が設置され、主に道路の開削に囚人が投入された。後述する月形の北漸寺は、その囚人達により建立された寺院として知られている。

現在の道内寺院総数は、広大な地域性という特質もあって二千二百余ヶ寺にものぼる。その中で最も多くの寺院を擁するのは真宗であり、同宗各派の総計では寺数一千に迫るまで教線を伸長させている。では、曹洞宗とはいえば、四百七十余ヶ寺の勢力を確立させており、先人の真摯な開教の成果が数字に反映されている。地域分布としては、道内ほぼ全域に渡って展開しているが、その中でも特に道南・道東に強い教線の展開が観られる。

各寺院の開創年代についても、旧松前藩領を除いては明

治中・後期に集中しており、先述の道庁開設と、それに伴う政治機構の整備による入植者の増加が、文化としての仏教流入に拍車をかけたものと推定される。例えば士別市の玉運寺は、明治三二年に屯田兵百戸が入植した翌年に開創されており、また、美唄市の大円寺は、開創年代としては大正六年に下るものの、鉱業所開設と共に創建されている。石炭の産地として知られた土地には、鉱山従業員の教化と葬祭儀礼の催行という、民生上不可欠の要素として寺院が建立された場合も多く見出せるのである。これらのことは、北海道の寺院がいかなる過程を経て開創されていったかを知る資料となろう。

七月二七日（水）

8：15　名古屋空港ターミナルビルに集合。竹内所長以下一七名は搭乗手続終了後、九時発の飛行機で千歳空港へ向かった。今回の研修日程はその一部が日本印度学仏教学会学術大会（於北海道大学）と重なっていたため、学会参加のため先に北海道入りしていた五名の団員とは千歳空港で合流の予定である。

10：35　千歳空港着。空港ロビーにて合流して全員が揃った。その上で一二時二〇分に釧路空港へ向かった。

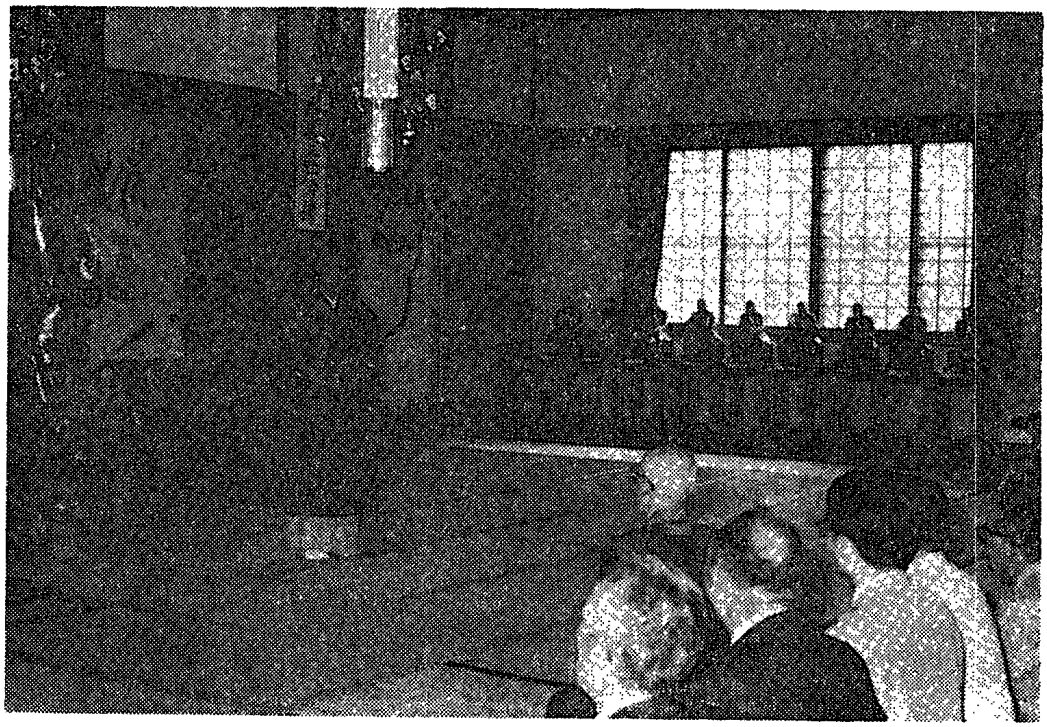
13：00　釧路空港着。バスにて市内の定光寺へ向かう。

14：00　定光寺着。広大な敷地に配された堂々たる大伽藍である。出発前に現董大道晃仙老師のご好意により「百年のあゆみ　曹洞宗定光寺」と題する冊子を賜っていたので、沿革などについては若干の知識があったものの、実際に参拝してみると文字とはまた異って同寺の隆盛を実感できる。

本尊上供の後、客殿において茶菓を頂戴し、老師よりご法話を伺った。

定光寺開創の経由は、明治一七年に寺院建立の出願をなし、同一九年に「釧路山定光寺」として寺号公称が認可されたことによる。その後、歴代住持老師の教化の成果により、狭隘な境内地を拡張整備し、堂宇の全てを漸次増改築して今日に至っている。昭和四年に専門僧堂の認可を受け、同二七年には山号を「慧日山」と改め、同六一年に開創百年を迎えている。道東の洞門寺院の中心に位置付けられる寺院である。

釧路定光寺本堂前にて



網走法竜寺にて

16：30　阿寒湖着。遊覧船にて湖のチュウルイモシリ（河口の島の意）のマリモ展示観察センターを見学。生体系については未だ解明されたとはいえない不思議な藻を、アイヌの人々がトウラサンペ（湖のみたま）と呼称したのも理解できる。

湖畔にて一泊し、翌日は網走に向かう予定である。

観光用のアイヌ集落である「アイヌコタン」を見学する団員も多かった。民族舞踊を鑑賞する小屋が設られており、風俗・習慣の一端を知ることができる。

七月二八日（木）

8：00　宿舎出発。摩周湖を経由して網走に向かう予定である。

9：15　摩周湖着。湖畔の展望台にて休憩。「霧の摩周湖」であったが、一瞬晴れて湖島のカムイッシュから対岸までを見渡せた。カルデラ壁の断崖で囲まれたこの湖は、類希な透明度と、水の出入口が無いにもかかわらず水位の変化が少ないことで知られている。

10：45　美幌峠頂上にて休息。屈斜路湖を遠望しながら網走へ向かう。

13：00　法竜寺着。参道の坂を上り、壮麗な山門を経て本堂に参拝する。本尊上供の後、客殿にて歓待を受け、苦難の歴史を拝聴した。

同寺の建立は、明治一六年の漁船難波にさかのぼる。その悲惨な事故の死者を丁重に葬ったのが、たまたま開教のためこの地を訪れていた新潟瑞泉寺の渡辺泰竜老師であった。当時、網走・斜里・常呂・紋別の四郡には寺院がなかったため、同師はこれを契機として教化布教に努められ、教義を宣揚されて、明治一九年に根室開法寺末として当寺を創建されたのである。

14：00　法竜寺出発。途中、網走刑務所を見学。

この刑務所も月形の監獄と同様に、北海道の道路建設のため本州各地から移送された受刑者を収容するために設置された歴史を持つ。大正一一年の刑務法施行により、網走囚徒外役所から現在名になったという。今では重刑者は居らず網走川に架かる橋を渡ったところにある農場刑務所となっている。

17：00　国道三五号線を走り、石北峠にて休息。ここは大

雪国道中の最高地点（標高一〇四六m）で、武利・武華の両岳を望み、眼下には広大な樹海が広がっている。

17：30　層雲峡着。

石狩川の水源となっている大雪湖を過ぎた辺りから柱状節理が見えていたが、特に新大函トンネルを出ると溶灰凝結岩の奇景が雄大な峡谷美を形成している。

暫く散策の後、宿舎に向かう。

七月二九日（金）

8：00　ホテル出発。

陽の出前に層雲峡ロープウェイを使って黒岳五合目展望台まで登ってみた。早朝の空気が心地よく、陽の出を見て下山。

9：30　旭川大休寺着。諸堂宇は整備がゆき届いており清々しい。現董永井賢史老師の気概が境内に漲っているように感じられる。本尊上供の後、信徒会館の鳳凰閣にて老師より法話を拝聴した。開教の労苦が偲ばれる貴重なお話しであった。

当寺の開創は明治二七年にさかのぼり、同三五年には伽藍の整備が成り、一層の成果を挙げて今日に至っている。現在の諸堂はその後新たに建てられたものである。多くの末寺を傘下に収める道央の名刹である。

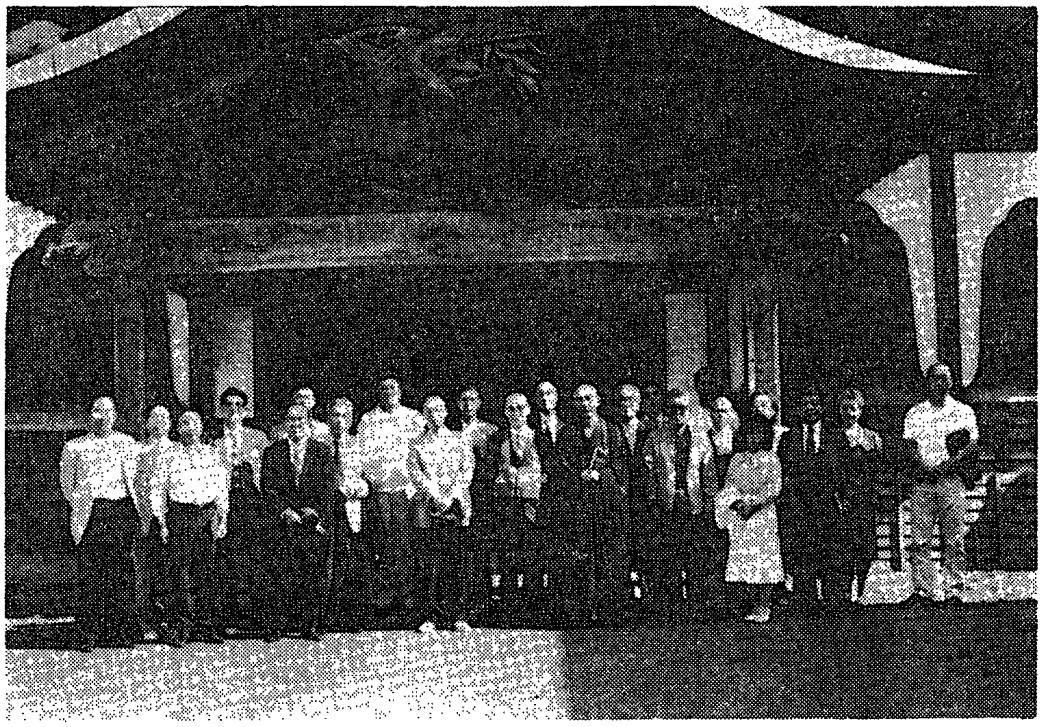
11：00　川村カ子トアイヌ記念館を見学して後、月形へ向かう。

14：00　月形北漸寺着。本尊上供の後、現董鶴原憲鳳老師より、月形町並びに月形集治監について拝聴し、また同寺の沿革についてお話をうかがった。

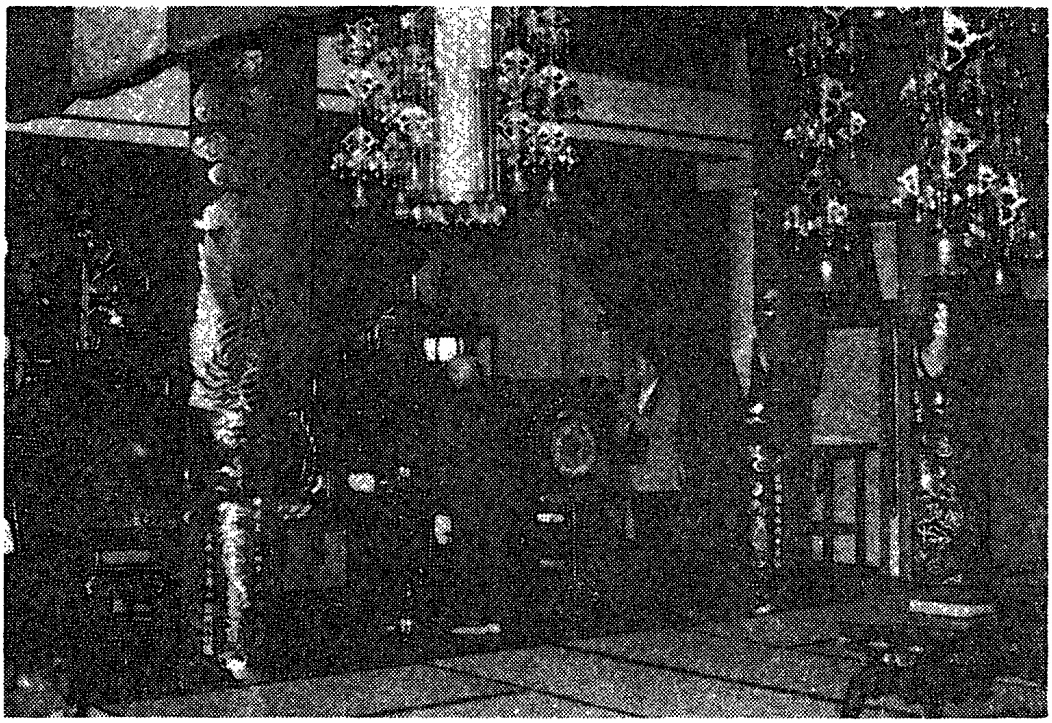
月形町には道内最初の監獄として樺戸集治監が明治一四年に設置され、反政府派の士族ほかの国事犯も多く収容された。悪条件下での難工事に多くの囚人が斃れ、篠津囚人墓地に埋葬された。町名は初代典獄（所長）であった月形潔の名に由来する。

北漸寺初代の帰雲春貌老師は、月形潔の要請により教誨師として活躍し、当寺の堂宇は明治三九年より四年をかけて囚人が完成させたのである。

15：30　月形行刑資料館を見学。資料館の建物は明治一九年に集治監本庁舎として建てられ、大正九年以降は町役場として使用されていた。当時の囚人が置かれた苛酷な



月形北漸寺本堂前にて

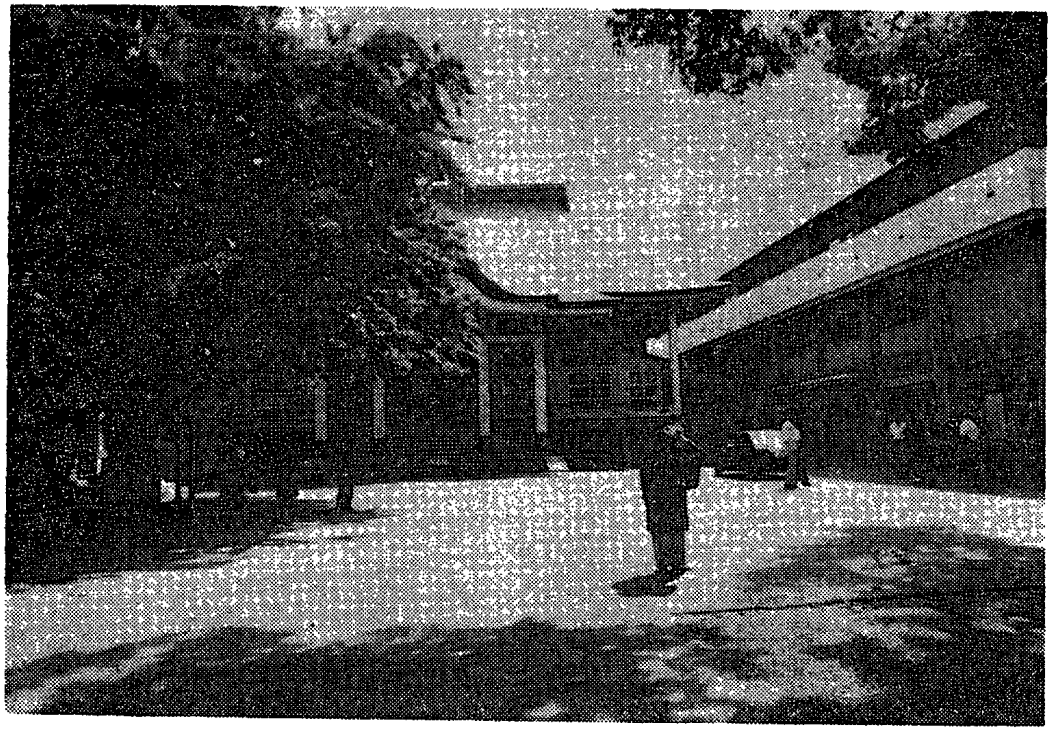


旭川大休寺本堂にて

状況を偲ばせる多くの資料・遺品が展示されている。
吉村昭の『赤い人』は当時の集治監を題材とした小説である。現在では考えられない非人道的な行為が、開拓という名のもとに政府によって行なわれていた事実に暗然とする。
見学後、札幌に向かう。

七月三〇日（土）

9：00　中央寺着。札幌の市街地に位置するこの名刹は、明治七年に西有禅師が曹洞宗管長代理として来道の折、小教院を開設したことに始まる。明治一五年、実相山中央寺と寺号を改めて現在地に堂宇を移した。現董は大本山永平寺副貫主宮崎奕保老師である。
北海道開教の拠点として君臨する大刹であり、愛知学院とも思わぬ接点がある。それは、中央寺独住五世橘成典老師（海部郡七宝出身）が明治三九年に曹洞宗立第三中学林（愛知学院の前身）に林長として就任していることである。同師は、愛知全久開山、宝珠三世中興、良参一七世、乾坤特住四世中興、静岡大洞特住七世として諸寺に歴任され、その間に大本山永平寺監院の重責を果され、さらに中央寺に晋住されて在世六年にして昭和一四年遷化されたのである。
私事で恐縮だが、筆者にとって橘老師は法の曾祖父にあたり、現在愛知学院に勤務させていただいているのもご法縁と感謝している。
老師の法嗣であった祖父悦道は、師の法語をまとめ、『清風交蘆集』と題して上梓した。交蘆は橘老師が西有禅師よりいただいた雅号で、同書には福井天章老師の序、浅野哲禅老師の跋が付されている。
浅野老師の文中には「先様の和平、道のために行きます」という橘老師のことばを銘記しているとの一節があり、老軀をひっさげて厳寒の地に赴かねばならなかった事情の一端をうかがわせている。
11：30　真駒内公園を見学し、羊ヶ丘にて休憩の後、支笏湖に向かう。
14：30　支笏湖着。各自湖畔を散策し、千歳空港へ向かう。
17：15　千歳空港を後にして名古屋空港へ。
18：50　定刻に到着。解散。有意義にしかも楽しく研修を



札幌中央寺全景

終えることができた。

末筆ではあるが、拝登させていただいた各ご寺院の尊董老師、並びに関係各位に厚くお礼申し上げる。